

平成29年度 自己評価報告書

対象期間 自：平成29年4月1日
至：平成30年3月31日

平成30年6月

はじめに

秋田コアビジネスカレッジでは、教育理念・教育方針に基づき、特徴を活かした学校運営や教育活動の継続的な向上を推進するために、自己評価及び学校関係者評価を実施し、その結果を公開しています。

本報告書は、学校関係者評価委員会を開催し、そこでご指摘いただいたコメントを加えることで、組織的・継続的な改善を図るうえでの指針の役割も果たすものと捉えています。

なお、自己評価報告書及び学校関係者評価報告書の公開は、文部科学大臣により認定される「職業実践専門課程」の認定要件となっています。

1. 学校の教育理念および教育方針

本校では、教育理念、教育方針を以下のように定めている。

<教育理念>

1. 誠実な人材の育成
時代が変化する中でも、職業人として「誠実な」生き方ができる人材の育成をしていきます。
2. 誠実な教育の実践
時代や学生の要求する知識・技術が習得できるように誠実な教育を実践していきます。
3. 誠実な学校
学校が、地域社会の一構成組織体として、社会に範たる存在となることを目指していきます。

<教育方針>

1. 実践・実務教育
資格取得や技術を習得して、社会貢献できるための「実践・実務教育」を行い、プロフェッショナル(理論と応用及び実践力を備えた職業人)を育成していきます。
2. 個育成教育
個々人の創造性・独創性や、持っている能力を最大限引き出すための「個育成教育」を行い、クリエイティブ(創造性・独創性)で、何事にも積極的に取り組む人材を育成していきます。
3. 全人教育
専門知識で裏打ちされた豊かな人間性を育成するための「全人教育」を行い、ヒューマニティ(幅広い専門知識に裏打ちされた豊かな感受性)に満ちた人材を育成していきます。

2. 本年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画

1. 主体性を育む教育方法を確立し、高度な資格検定の取得率向上を図る。
2. 習得した知識や技術を社会で応用できる実践的な職業教育を行う。
3. 業界や地域社会と連携を図りながら、県内企業への就職を推進し、定着に努める。

3. 評価項目の達成および取組状況

(1) 教育理念・教育方針・目的・育成人材像等 (適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1)

| | 評価項目 | 評価 |
|---|--|----|
| 1 | 学校の理念・目的・育成人材像は定められているか (専門分野の特性が明確になっているか) | 4 |
| 2 | 学校における職業教育の特色は示されているか | 4 |
| 3 | 社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか | 4 |
| 4 | 学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想等が学生・保護者等に周知されているか | 4 |
| 5 | 各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか | 4 |

現状・課題と改善策

| | |
|---|---|
| 1 | ・教育理念、教育方針、本校の特色を明確にし、Webサイトやパンフレットで公開している。 |
| 2 | |
| 3 | ・学校の将来像を描き、最新技術や傾向を分析・導入し、時代を先取り出来るよう対応している。 ・社会が求める即戦力人材育成のニーズを踏まえ、学科の再編成、3年課程の見直しを行っている。 |
| 4 | ・保護者に対しては入学時の他、ホームページやパンフレットで公開しており、学生会が発行している学校通信を通じて、学科の特徴や取り組み、学校の教育活動について周知を図っている。学生に対してはオリエンテーションの他、学生便覧や日々の授業を通して伝えている。 ・日常に対する動機付けとしてスローガンを掲げて校内掲示をする等して浸透を図っている。 |
| 5 | ・年度当初に教育目標、育成人材像を掲げ、学校関係者を交えて確認している。 ・企業の人事担当と学校側の関係を密にすることで、企業が求める人材をヒヤリングし学生に伝えている。 |

(2) 重点目標 (適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1)

| | 評価項目 | 評価 |
|---|---------------------------------------|----|
| 1 | 主体性を育む教育方法を確立し、高度な資格検定の取得率向上を図る。 | 3 |
| 2 | 習得した知識や技術を社会で応用できる実践的な職業教育を行う。 | 3 |
| 3 | 業界や地域社会と連携を図りながら、県内企業への就職を推進し、定着に努める。 | 4 |

現状・課題と改善策

| | |
|---|--|
| 1 | ・国家資格の取得率向上へ向け、教育課程(カリキュラム)の変更や指導方法の工夫等の取組みを図っている段階であり、次年度以降その成果を出したい。 ・従来の講義形式からアクティブラーニング型の授業に切り替えたが、まだ主体的な解決型学習能力が十分でない。今後は集団での学習や個人での自主的な学習など、その効果的な方法を確立する。 |
| 2 | ・地域の企業と連携してコンテストに出場する等、実践的な職業教育を行っている。さらなる充実を図るとともに、一般常識やマナーの定着も進める。 ・どの領域・レベルからが実践的と言えるかが曖昧であるため、学科単位で独自のスキル指標を作成する必要がある。 |
| 3 | ・企業連携した科目を設け、特に県内企業への興味を持たせるよう対応しているので、秋田県内就職率は平成28年度82.3%、平成29年度78.7%と高い値を維持している。 ・専門職種との勉強会や交流会、セミナーに学生を参加させたり、企業人の講話の機会を設ける等している。地域企業との交流を通じて内定に至ったケースもあり、引き続き連携を図りながら定着に努める。 ・実習先や地元企業、卒業生の就職先等から直接求人票をいただく機会が増えている。 |

(3) 学校運営 (適切・・・4、ほぼ適切・・・3、やや不適切・・・2、不適切・・・1)

| | 評価項目 | 評価 |
|---|--|----|
| 1 | 目的等に沿った運営方針が策定されているか | 4 |
| 2 | 運営方針に沿った事業計画が策定されているか | 4 |
| 3 | 運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか | 4 |
| 4 | 人事、給与に関する規程等は整備されているか | 4 |
| 5 | 教務・財務等の組織整備等意思決定システムは整備されているか | 4 |
| 6 | 業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか | 4 |
| 7 | 教育活動等に関する情報公開が適切になされているか | 4 |
| 8 | 情報システム化等による業務の効率化が図られているか | 3 |

現状・課題と改善策

| | |
|---|---|
| 1 | ・運営方針を事業計画・予算に反映させ、組織として活動できるようにしている。 |
| 2 | |
| 3 | ・寄附行為及び組織図に明記され、有機的な機能を図っている。校長が教育的な観点から学校経営を行っている。 |
| 4 | ・法人(学園)において規程を定めている。目標管理に重点を置いた自己評価制度である勤務評価制度を実施しており、人事評価に用いている。 |
| 5 | ・法人(学園)の規程に則って整備されている。今後も継続して意思決定システムの研究を進めていく。 |
| 6 | ・個人情報保護について規則の強化を図った。昨年度導入したネットワークセキュリティ機器も活用し、今後もセキュリティ強化を図る。 |
| 7 | ・パンフレットやホームページ上の情報公開ページで適切に公開している。 ・学生の活動状況をホームページに掲載しているが、更新頻度が十分ではないので、計画的にできるだけリアルタイムで掲載していく。 |
| 8 | ・平成27年度より新教務データベースの運用が開始され、運用ルールが定着してきた。しかし、パッケージソフトの制約があり、機能によっては別システムを併用しているので、カスタマイズ等のコストをかけることも検討する。 ・出席状況等のデータを手作業で算出し資料作成する等しており、情報システム化による業務の効率化が十分ではない。部分的にでも作業の自動化をする等して業務の省力化を図る。 ・非常時への対策をさらに進める必要がある。 |

(4)教育活動 (適切・・・4、ほぼ適切・・・3、やや不適切・・・2、不適切・・・1)

| | 評価項目 | 評価 |
|----|---|----|
| 1 | 教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか | 4 |
| 2 | 教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか | 4 |
| 3 | 学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか | 4 |
| 4 | キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発等が実施されているか | 3 |
| 5 | 関連分野の企業・関係施設等や業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか | 4 |
| 6 | 関連分野における実践的な職業教育(産学連携によるインターンシップ、実技・実習等)が体系的に位置づけられているか | 4 |
| 7 | 授業評価の実施・評価体制はあるか | 4 |
| 8 | 職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか | 4 |
| 9 | 成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか | 4 |
| 10 | 資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか | 4 |
| 11 | 人材育成目標の達成に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか | 4 |
| 12 | 関連分野における業界等との連携において優れた教員(本務・兼務含む)を確保する等マネジメントが行われているか | 4 |
| 13 | 関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成等資質向上のための取組が行われているか | 3 |

現状・課題と改善策

| | |
|----|---|
| 1 | ・教育理念に基づいて、学科ごとに方針を策定し、教育課程を編成している。 |
| 2 | ・教育課程編成委員会等を通して業界のニーズを把握し、育成人材像を明確にした上で教育到達レベルに必要な学習時間を確保し、シラバスに明示している。社会環境の変化によって求められる人材も変わるので、継続的に行っていく必要がある。 |
| 3 | ・各科目の関連を明確にし、シラバスで示している。新しい技術等に対応するため、継続的に見直しを図っている。 |
| 4 | ・カリキュラムにキャリア教育、関連分野でインターンシップ、企業見学、職業人講話等を組み込んでいる。関連分野でのインターンシップが難しい場合もあるので、企業連携の強化や実施方法を模索していく必要がある。 |
| 5 | ・関連分野の企業の意見を取り入れながら、年度ごとに最新の業界動向に合わせて、カリキュラムの見直しを図っている。 |
| 6 | ・実践的な職業教育の視点に立ち、カリキュラムに関連分野のインターンシップ、企業見学、職業人講話等を組み込んでいる。 |
| 7 | ・前期／後期ごとに、学生による授業評価を実施している。 |
| 8 | ・教育課程編成委員会を通して、職業教育の実施内容に対する評価や意見をいただき、継続的に改善を図っている。 |
| 9 | ・学則や教務規定により、成績評価・単位認定の基準、進級・卒業判定の基準を明確にしている。 |
| 10 | ・資格対策授業をカリキュラムに組み込み、体系的に指導している。個別対応が必要な場合は、補習を行う等して対応している。 |
| 11 | ・関連分野での就業経験があり、専門スキルの高い教員の確保に努めている。さらに複数人体制を整え、学生に対してきめ細かい指導ができるようにする。 |
| 12 | ・関連分野の企業と連携を図り、専門科目の非常勤講師や職業人講話の講師の確保に努めている。さらに業界ニーズを的確に捉えて、学科やクラス運営ができる人材の育成が必要である。 |
| 13 | ・業界の動向や、最先端の知識・技能を把握するため、外部研修やセミナーへ参加している。分野によっては、関連する研修会等の実施頻度が低く、参加が難しい場合がある。 |

(5)教育成果(学修成果) (適切・・・4、ほぼ適切・・・3、やや不適切・・・2、不適切・・・1)

| | 評価項目 | 評価 |
|---|---------------------------------------|----|
| 1 | 就職率の向上が図られているか | 4 |
| 2 | 資格取得率の向上が図られているか | 3 |
| 3 | 退学率の低減が図られているか | 2 |
| 4 | 卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか | 3 |
| 5 | 卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか | 3 |

現状・課題と改善策

| | |
|---|--|
| 1 | <ul style="list-style-type: none"> ・就職希望者における内定率は100%を維持している。 |
| 2 | <p>[情報・高度IT]資格取得に対する学生の意欲は向上しているが、十分な資格取得成果とは言えない。学生の意欲を維持しながら資格対策のための授業時数を増やしていく。</p> |
| 3 | <ul style="list-style-type: none"> ・平成28年度4.3%、平成29年度7.0%と退学率が悪化した。これまで以上に生活態度の観察を怠らず早めの状況把握に努め、三者面談を実施する。また、教員間で退学防止につながる事例を共有する。 ・経済的理由で退学する事例があった。 |
| 4 | <ul style="list-style-type: none"> ・卒業生に対して、3年前から追跡調査(定着率調査)を実施し、少なくとも卒業後3年間の状況は把握するようにしている。 ・現在は、担任がそれぞれの方法で調査したり、内定先の企業からの情報により把握している段階で、全卒業生、特に県外に就職した学生の一部については状況を把握できていない。 ・今後は、SNSなどを活用して時代に応じた情報収集手段の確立を進め、学校組織として確実に調査する仕組みを作る。 |
| 5 | <ul style="list-style-type: none"> ・特定の業界については、卒業生からのフィードバックがあるが、全体を網羅するに至っていない。 ・卒業後のキャリア形成への効果を確認するため、3年間は卒業生の状況調査を継続して行い、教職員間で情報共有する。 |

(6) 学生支援 (適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1)

| | 評価項目 | 評価 |
|----|---|----|
| 1 | 進路・就職に関する支援体制は整備されているか | 4 |
| 2 | 学生相談に関する体制は整備されているか | 3 |
| 3 | 学生に対する経済的な支援体制は整備されているか | 4 |
| 4 | 学生の健康管理を担う組織体制はあるか | 2 |
| 5 | 課外活動に対する支援体制は整備されているか | 3 |
| 6 | 学生の生活環境への支援は行われているか | 3 |
| 7 | 保護者と適切に連携しているか | 3 |
| 8 | 卒業生への支援体制はあるか | 3 |
| 9 | 社会のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか | 3 |
| 10 | 高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか | 3 |

現状・課題と改善策

| | |
|----|---|
| 1 | <p>・担任や就職担当、キャリアコーディネータ、外部講師と連携し支援している。</p> |
| 2 | <p>・主に担任が学生相談に乗っているが、内容によっては対応の仕方が難しい場合があるので、相談内容に合わせて担当者を割り当てたり、複数の教員で学生へ対応できるような体制をつくる。</p> <p>2</p> <p>・相談内容によっては教員では対応しきれない場合があるので、連携できる専門医や専門家を確保し、学生が相談できるような体制をつくる。</p> |
| 3 | <p>・「コア奨学金制度」(経済的理由により修学が困難な学生に対して、授業料20万円を減免)を3名の学生に適用した。「秋田県私立専修学校専門課程修学支援実証研究事業」の支援校に本校が指定されたため、この学生3名は10万円の支援金を追加支給されたほか、修学支援アドバイザーから貸与型奨学金についての講演や卒業後の財政的生活設計に係る助言を受けた。</p> |
| 4 | <p>・学校医が常駐しておらず、医務スペースも十分とはいえないため、学生が体調不良の際には症状に応じて診療所を紹介できるようにする。また、学生の体調によっては適切な判断や対応ができない場合があるので、教職員が知識や対処方法を身に付け、的確に対応できるようにする。</p> <p>4</p> <p>・メンタルヘルスマネジメントについては教員では対応しきれない場合があるので、連携できる専門医や専門家を確保し、学生が定期的に通院できるような体制をつくる。</p> |
| 5 | <p>・平成28年度より学生会を設置して、学生が自ら活動を行う環境を整備するとともに、活動の助言や支援をしている。</p> <p>5</p> <p>・自発的に活動を行う学生が少ないので、活動の意義を伝える等のサポートもしていく。</p> |
| 6 | <p>・面談や相談を通して、学生生活について把握と助言を行っている。</p> <p>6</p> <p>・一人暮らしやアルバイトをしている一部の学生は生活が不規則になることがあるので、欠席や遅刻の兆候が見られる場合は、速やかに三者面談を行う等早期に対応をする。</p> |
| 7 | <p>・定期的な三者面談で学校と家庭の状況の共有をしたり、学生が無断で欠席した場合は保護者へ連絡をする等、保護者と連携して学生対応をしているが、うまく成果が出ない場合があるので、より密に連絡を取り合いながら、学生一人一人に合わせた最適な対応の模索を進める。</p> <p>7</p> |
| 8 | <p>・定着率調査を通して主に県内就職の卒業生の状況を把握しており、離職して仕事を探している卒業生に求人情報を紹介する等の支援を行っている。</p> <p>8</p> <p>・卒業後も相談に来る学生へは就職支援を行っているが、状況を把握していない卒業生には対応できないので、担任が定期的に連絡を取り合う等して状況を把握し、継続的に支援できる体制をつくる。</p> |
| 9 | <p>・業界の実務に必要なスキルを身に付けるため、実際の現場を意識して演習を実施したり設備を用意したりしているが、まだ十分とはいえないので、企業や業界団体との連携によって学外で利用できる施設・設備を確保する等、より良い教育環境を整えていく。</p> <p>9</p> |
| 10 | <p>・学校見学の受け入れや模擬授業を通して、高校生へのキャリア教育や職業教育を不定期に行っているが、体系的なものではなく一部の内容にとどまっているので、高校の長期休暇を活用するなどして、継続的にキャリア教育・職業教育を行うようにする。</p> <p>10</p> <p>・出前授業を具体化し、キャリア教育の充実を図るとともに、当校の認知度も高める。</p> |

(7)教育環境 (適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1)

| | 評価項目 | 評価 |
|---|--|----|
| 1 | 施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか | 3 |
| 2 | 学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか | 3 |
| 3 | 防災に対する体制は整備されているか | 3 |

現状・課題と改善策

| | |
|---|--|
| 1 | <ul style="list-style-type: none"> ・雨漏り補修工事やトイレ改修工事等の老朽化対策を実施した。 ・パソコンを買い替える等必要な設備を確保し環境を整えてはきているが、数量やスペックに余裕のある整備までには至っていない。今後は 計画的に設備更新・メンテナンスを行えるよう、補助金の活用を図る。 ・動きのある学科ではそれに見合った広さも必要であるが校内では限界がある為、企業と連携し実際の施設で作業する時間を確保する。 ・自学用のオープンスペース(図書室)等が整備されていないので、今後の検討課題とする。 |
| 2 | <ul style="list-style-type: none"> ・インターンシップ先を訪問する等、企業との連携で学生への指導を行っているが、遠隔地の実習先との、より綿密な連絡体制の構築を図る必要がある。 ・学科の教育課程に則したインターンシップ・実習先を更に開拓する必要がある。 ・長期のインターンシップを行っており、学生は求められる社会人像を感じ取る事ができ、企業は学生の能力を見る機会になるため、学生と実習先のマッチング体制が整っている。 |
| 3 | <ul style="list-style-type: none"> ・毎年、防災訓練を実施しているが、訓練時以外でも取り組む。 ・今年度は震災時等の電気不通を考慮して、拡声器を各階に常備している。今後はAED講習等の定期的な実施を検討する。 |

(8) 学生の募集と受け入れ (適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1)

| | 評価項目 | 評価 |
|---|-----------------------------|----|
| 1 | 学生募集活動は、適正に行われているか | 2 |
| 2 | 学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか | 3 |
| 3 | 学納金は妥当なものとなっているか | 4 |

現状・課題と改善策

| | |
|---|---|
| 1 | ・昨年度ホームページをリニューアルしたが、情報の更新がスムーズにできなかった。定期的(毎週水曜日)にホームページを見直す。 |
| 2 | ・専門学校に進学するメリットを伝えきれていなかった。成功事例としてホームページに卒業生の掲載を増やし、学生時代の取得資格や経験が生かされていることをアピールする。 |
| 3 | ・学納金については、年度ごとに確認をしている。 |

(9) 財務 (適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1)

| | 評価項目 | 評価 |
|---|--------------------------|----|
| 1 | 中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか | 3 |
| 2 | 予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか | 4 |
| 3 | 財務について会計監査が適正に行われているか | 4 |
| 4 | 財務情報公開の体制整備はできているか | 4 |

現状・課題と改善策

| | |
|---|---|
| 1 | ・無借金経営を継続しているが、施設設備の老朽化に伴う設備更新や修繕費用に伴う支出額が大きくなっている。 ・安定した学校経営のために社会情勢に合わせた学科、コース編成や学生募集の在り方の検討を継続して行う。 |
| 2 | ・事業計画に沿った予算・収支計画を立てており、その管理を月単位で行っている。 |
| 3 | ・公認会計士による会計監査を年に2回行っている。 |
| 4 | ・ホームページ上において財務情報を公開している。 |

(10)法令等の遵守 (適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1)

| | 評価項目 | 評価 |
|---|-------------------------------|----|
| 1 | 法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか | 4 |
| 2 | 個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか | 4 |
| 3 | 自己評価の実施と問題点の改善を行っているか | 4 |
| 4 | 自己評価結果を公開しているか | 4 |

現状・課題と改善策

| | |
|---|--|
| 1 | ・学校教育法および専修学校設置基準等の関連法令の順守を心掛け、関係所管からの通知等を教職員に回覧し周知するとともに、特に重要な案件については対応を協議している。 |
| 2 | ・学生全員にホームページ等への掲載に関する承諾書を得ている。学生の情報を適切に保全するため、今後も継続的に個人情報保護規程に則り、ルールの運用を徹底する。 |
| 3 | ・教職員の他、学校関係者評価委員と課題の共有と改善方策についての取り組みと振り返りを行っている。今後は連携企業からいただいた意見を共有し改善案や新たな案件に取り組み、結果検証を実施する。また、PDCAサイクルを構築し定着を図る。 |
| 4 | ・自己評価報告書は学校関係者評価報告書や財務情報と共にホームページで公開している。 |

(11)社会貢献 (適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1)

| | 評価項目 | 評価 |
|---|---|----|
| 1 | 学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか | 3 |
| 2 | 学生のボランティア活動を奨励、支援しているか | 3 |
| 3 | 地域に対する公開講座・教育訓練(公共職業訓練等を含む)の受託等を積極的に実施しているか | 3 |

現状・課題と改善策

| | |
|---|---|
| 1 | ・学校の施設を活用しドローンに関する公開講座を年3回(延べ72名参加)実施した。また、一般人向けに学生によるパソコン講習会を行ったり、学内で実施するプログラミングコンテストに一般人を招待したりした。今後も継続的に公開講座を実施する。 ・社会人や求職者向けの教育訓練として教育設備を提供しているが、学生が主体的に行う社会貢献や地域貢献の機会が少ないため、学生会を通じて学校行事において地域住民の方々との交流やボランティア、他分野にわたる講座を実施する。 ・ホームルームやスポーツ大会、学校祭等の時間を利用し清掃活動の実施を検討する。 |
| 2 | ・学生会主体でボランティア活動の紹介を行い支援していたが、積極的な参加には至らなかったため、今後はクラス単位でのボランティア参加の検討や他の団体と連携した活動等も模索する。 |
| 3 | H29年度実績として、 求職者支援訓練2本(計16名)、介護福祉士実務者研修(10名)、秋田県警サイバー犯罪捜査基礎研修(15名×2回)、簿記講座2回(計9名)。その他オープンな講座は「パソコン講習会」「ドローン講座」を実施した。 ・公共職業訓練を受託し積極的に実施している。今後はパソコン講習会等の地域住民の方々に還元する講座の実施を増やしていく。 |